



60

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年6月27日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

虐待そのあと ①

7月1日(木)＝社会保障面



親の虐待から逃げるために家出をする。生きるために知らない男と夜を過ごす。そして保護された子どもは、児童相談所から「非行」として扱われ、18歳になると支援の枠から外

れて社会に放り出される——。一人一人への取材を重ねた「虐待そのあと」は、こうした経験を持つ女性(21)＝写真＝について2回にわたって取り上げ、虐待の実態と課題を掘

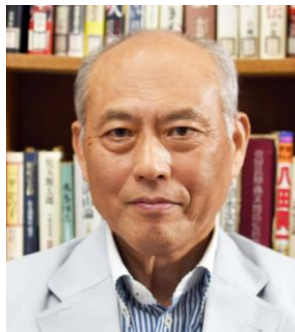
り下げます。

※①は7月8日(木)に掲載します。
※毎日新聞の医療プレミア連載「虐待そのあと」は、ウェブサイトでも全文を読むことができます。

特集 ワイド

前都知事・舛添さんに聞く 五輪遺産

29日(火)＝夕刊特集ワイド



新型コロナウイルスの感染拡大への不安がやまない中、東京オリンピック・パラリンピック開幕まで1カ月を切りました。かつて厚生労働相として新型インフルエンザ対応にあたり、さらに開催都市・東京の知事として準備にも取り組んだ舛添

一さん(72)＝写真＝に今回の五輪がもたらす遺産とは何かを聞きました。舛添さんは、パンデミック(世界的大流行)下で五輪の存在そのものが今、問われていると指摘しています。



論点 コロナ禍の文化芸術

30日(水)＝オピニオン面



家族と調理しよう

28日(月)＝暮らしナビ面

コロナ禍で、離れて暮らす息子や娘、孫と会う機会が少なくなっている人も多いでしょう。たまに会った時は一緒に料理を作るのもいいかもしれません。楽しいだけでなく、小学生を対象にした研究によると、調理経験

がある子ほど責任感や他人への思いやり、自己肯定感などが高い傾向があり、国語や算数などの教科学習への意欲の高さにもつながっているという結果も出ています。家族で調理する魅力を専門家に聞きました。

映画館、美術館などは休業や観客の入場制限を求められます。文化芸術への支援策はどうか、当事者側から発信するべきか、行政の支援のあり方、オンライン発信の法整備、医学的見地からの三つの視点から、コロナ禍で浮かび上がった文化芸術の課題と提言を聞きます。



毎日新聞
150
2022年2月21日
毎日新聞創刊150年

7月1日から「宅配購読者無料プラン」を紹介するテレビCMをTBS、MBS、RKBなどの地上波、BS各局で全国放送します。宅配購読者が毎日ID登録すると「オンラインイベント」への招待「デジタル版読み放題」となるプランの魅力やお得感をアピールします。出演しているモデルの方の演技にもご注目。ラジオCMも屋外広告なども展開します。ご期待ください。(古谷亘)

竹橋の窓
編集後記

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。